

autocult

Citro n 11 Berline Gazogene (フランス, 1938)

デザイナーと小さなシリーズ

Scale 1/43

#05047

available

02/2024

Limited edition 333 Stk.



石炭で走った車

最も成功したフランス車といえば、シトロ ン11CVがすぐに思い浮かぶだろう。もちろん、このモデルが誕生したとき、誰もその成功を予測することはできなかっただろう。その後の11CVは、会社のボスのために個人的に製造された特別仕様のものであった。アンドレ・シトロ ンは、主に3つの重要な基準を満たす車を想定していた - それは速く、経済的であり、安全でなければならなかった。

最も強力な4気筒バージョンは、1,911ccの直列エンジンを前軸の上に搭載していて、型番は11CVである。これは制御馬力を表し、排気量が分類された。エンジンは56hpを発揮し、100キロメートルあたり約12リットルのガソリンを消費した。生産は第二次世界大戦中も続いた。

しかし、フランスがドイツ軍に占領されると、民間用のガソリンは配給制となり、エンジンは木炭ガスで動くよう

に改造された。改造は「Fab Elgazo Tarbes」という企業によって行われ、それはフロントバンパーの下の車体に2つの大きなタンクが取り付けられ、それぞれがフェンダーの側面からボンネットまで引き上げられたような形をしていた。これらの2つの金属容器に石炭が詰められ、点火された。約30分後には十分なメタンガスが発生し、それが上昇してキャブレターに送られた。もちろん、エンジンは通常の出力を発揮しなかったが、以前の3分の1の馬力しか出なかったとしても、少なくとも車は走った!

AutoCult GmbH
Äußere Further Straße 3
90530 Wendelstein
Germany

電話番号 +49 / 9129 / 296 4280
ファックス +49 / 9129 / 296 4281
info@autocult.de

www.autocult-models.de